

分子研 レターズ

43

Issue of February 2001



巻頭言

山の向うの化合物.....中村 晃

研究紹介

水中の集団励起とイオンの

ダイナミクス.....平田文男

時間分解分光による凝縮相分子

ダイナミクスの研究.....田原太平

レターズ

分子構造総合討論会運営委員会の

発足の経緯について.....濱口宏夫

分子科学研究所一般公開

3年に一度行っている分子科学研究所の一般公開「分子科学への招待」を10月21日(土)に実施しました。不思議なことに前回同様前日は大雨でしたが、当日は爽やかな天気にも恵まれ、午前9時半の所長の開会宣言とともに順調に開始されました。小、中、高、大学生、家族連れ、年輩の方々も多くの方が見学して下さいました。今回は、各研究グループや施設が用意した展示が29件あり、講演は今迄通り3件でした。受付では、見学者の皆さんに、機構の冊子、機構の宣伝パンフレット「OKAZAKI」、分子研の宣伝パンフレット、アンケート用紙、分子研の文字入りボールペンとプラスチック製ファイルの一式を展示及び講演の題目と地図を印刷したファイルに入れて配りました。これは中々好評だったようです。講演は魚住教授、岡本助教授、平等助教授による、「見えないけれど身近な分子」、「ポストゲノム時代の分子生命体科学」、「高性能マイクロチップレーザーの展望」の題目で午前1件午後2件、それぞれ1時間に亘って熱心に行われました。展示、講演ともにテレビ取材もあり緊張の中で良い公開が出来たのではないのでしょうか。

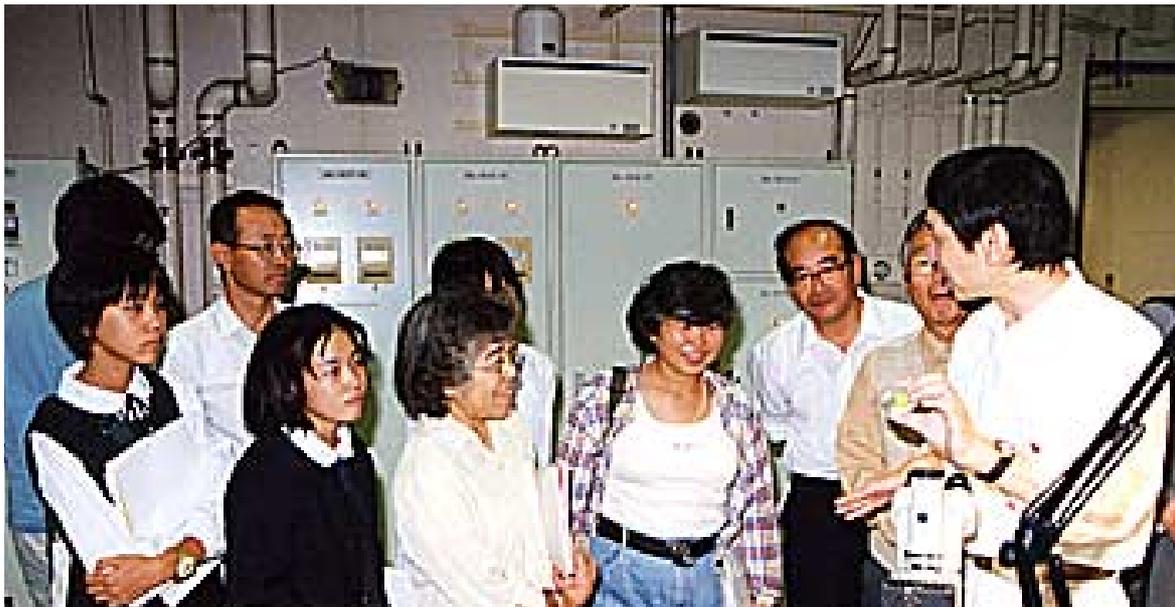
展示会場が色々な建物にかなり広く点在している事を考え今回は少し工夫をこらしました。その第一は、展示をAからEまでのグループに分け、見学者の好みに応じて好きな所からスタート出来る様にしました。今迄は、回るコースを決めていたので、混雑が時間とともに移動するという状況になっていたのですがこれをある程度解消することが出来ました。ただ、アンケートの記入と回収の場所は一ヶ所にしましたので、そこに戻ってもらえる様に工夫する必

要は生じました。それから、あちこちに出来るだけ多くの椅子を置き休憩を取れる様に工夫もしました。

分子研の一般公開も今回で9回目となりますが、若い研究者が自分達の平素の研究内容を一般の方々に理解してもらえる様に一所懸命に説明すると言うノウハウもちゃんと引き継がれていて大変良かったのではないかと思います。本物の科学に触れ、説明を聞いて聞いている姿を見ると、説明している人もやりがいを感じただろうと思います。アンケートでも一所懸命の説明に感謝する内容が相当ありました。これからは、基礎学術研究においても「説明責任」が一層問われる様になりますから、一般公開の定着とともに、平素研究者仲間では考えもしない様な質問にも答えられるように訓練・努力を心掛けていく必要もあるでしょう。

最近の地震や色々な事件の多さを考え、細かい所にも気を配って準備をして頂いたお陰で事故もなく無事に終えることが出来たのは何よりであったと思います。管理局の方々、分子研の職員の方々の努力に改めてお礼を申し上げます。ただ一つ残念だったのは、見学者の数が1500名弱と例年より少し少なかったことです。これは、小中学校の登校日および高等学校の試験日に重なったこと等が響いたようです。次回からは、この点にも気を付けて開催日を決める必要があるでしょう。以下に展示項目と講演題目の一覧を掲げておきます。

一般公開実行委員長
中村宏樹



展示内容

- A01: スーパーコンピューターで探る分子の世界
- B01: 液体のミクロな構造と動きを探る
- B02: ナノメートルの世界を創る・視る
- B03: ドラムにきざまれた化学反応の歴史
- ドラムレコード型質量分析装置の開発
- B04: イオンで計る分子の指紋
- B05: 化学結合という「ばね」
- B06: 金属酵素の働き
- B07: 分子と磁石
- B08: 電波で調べる分子集合体の不思議な世界
- B09: 分子科学研究をささえるガラス工作
- B10: 真空中で方向の揃った分子クラスターの発生
その構造と反応性の解明
- B11: 原子を集めてミクロの「だんご」をつくる
- B12: ゼロから始める光合成
- B13: ミクロの時間の化学

- C01: 物性のコンピュータ・シミュレーション
- C02: 光でみる有機伝導体の性質
- C03: 金属蛋白質の科学
- C04: 多核金属錯体の集積化
- C05: 化学物質のエネルギー変換
- C06: 水中での化学反応
- D01: 実験装置のいろいろ
- D02: 電磁誘導でさぐる物質の磁性
- D03: He 液化機のしくみ
- E01: 世の中のために役に立つレーザー
- E02: 宇宙の光を地上で使う - 放射光による分子科学 -
- E03: 加速器からの光で見る物質内部の電子
- E04: 放射光で拓くナノ科学の世界
- E05: 金属に強く束縛された電子を光で取り出す装置
- E06: 極端紫外光で外殻電子を見る



講演会

見えないけれど身近な「分子」

- 光学活性有機分子の開発を中心に -

魚住 泰広

ポストゲノム時代の分子生命体科学

- 計算機シミュレーションによる蛋白質分子の立体構造予測

岡本 祐幸

高性能マイクロチップレーザーの展望

平等 拓範

第 10 回分子科学研究所オープンハウス

2000年5月13日(土)に第10回分子科学研究所オープンハウスが開催されました。この行事は、全国の大学院生・学部学生および社会人を対象とする見学会です。この見学会は毎年一度春に開催されており、分子研の研究内容を主に学生向けにわかりやすく解説すると同時に、総合研究大学院大学の基盤機関としての分子研の教育活動について外部の人々に知っていただくことをも重要な目的としています。

3月頃から学会誌(日本化学会、日本物理学会、および日本生物物理学会)に広告を掲載し、分子科学関連分野の研究室に電子メールなどで案内を送り、またポスター・チラシを印刷して学会会場や全国の大学で掲示をお願いして参加者を募集しました。参加者は合計53名で、内訳は次の通りです。中部地

区からの参加が多かったのですが、中には鹿児島大学・新潟大学・東北大学など遠方からの参加者もあり、熱意が感じられました。

学部4年生	15
修士1年生	19
修士2年生	13
博士課程学生	5
社会人	1

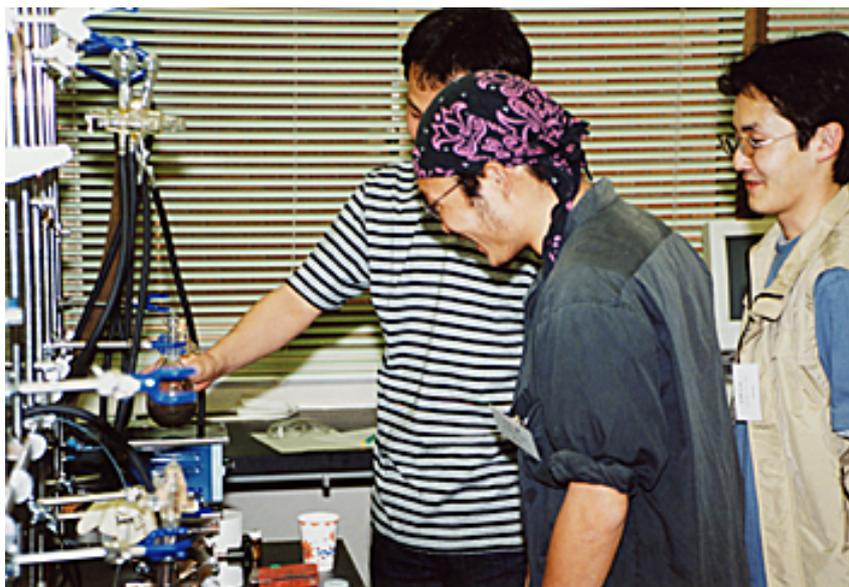


分子研の概要を説明する茅所長



説明に熱心に聞き入る

実験の実演も
あったりして・・・



当日は、参加者に午後
1時にコンファレンスセ
ンターに集まっていただ
き、映画「分子科学」を
(待ち時間に)上映した
あと、茅所長が分子科学

研究所の概要を説明し、続いて田中晃二教授が総合
研究大学院大学の概要を説明しました。次に総研大
生(構造分子科学専攻3年)の和田亨君に「学生の
目から見た総研大」について話してもらいました。



次はどこに行こうかな

このあと約3時間半にわたって、参加者は研究所
内を自由に見学しました。各研究グループが工夫を
こらして研究内容を説明し、特に学部学生の人など
は見たこともないような装置を目の前にして感激し
ていました。ただ、アンケートを回収してみたところ、
広すぎて大変・展示場所がわかりにくい、など
の意見もあり、案内の掲示にもう少し力を入れる必
要があったようです。

夕方には、参加者と研究所のメンバーが集まって
職員会館にて懇親会を行ない、和やかな雰囲気の中
で終了しました。

本年も実り多いオープンハウスを無事終了するこ
とができました。所内のみなさん、および各大学の
の方々のご協力・ご理解に感謝いたします。

(永田 央 記)

にぎやかな懇親会

